

| 著書、学術論文等の名称 | 単著・共著の別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称 | 概要 |
|--|--|--|--|--|
| (著書) (学術論文) 1 「上限価格規制下の余剰分析」(修士(経済学)特別課題研究(論文形式)) 2 「上限価格規制と最適特許期間に関する厚生経済学的分析」(博士(経済学)学位論文) | 単著 単著 | 平成27年3月 令和3年7月 | 成蹊大学大学院経済経営研究科 成蹊大学 | 1次市場と2次市場で取引される結果として、より厳しい上限価格規制によって消費者余剰はむしろ減少してしまう場合があることを理論的に示した。 上限価格規制の消費者余剰への影響と最適特許期間に関する理論研究。 https://seikei.repo.nii.ac.jp/records/2001071 |
| (その他) 1 「闇市場の存在を考慮した余剰分析による上限価格規制政策の評価」 2 「研究開発費用に関する政府の不確実性と社会的に最適な特許期間」 3 「特許制度の限界と非営利組織による研究開発」 4 「上限価格規制は消費者を幸せにするか——供給割り当ての効率性に着目した余剰分析——」 5 「政府とイノベーターの間の研究開発費用に関する情報の非対称性と社会的に最適な特許の存続期間について」 6 「研究開発費用に関する政府の不確実性と社会的に最適な特許政策」 7 "Optimal Patent Length under Asymmetric Information on R&D Cost" | 単独報告 単独報告 単独報告 単独報告 単独報告 単独報告 | 平成27年10月 平成29年9月 平成28年3月 平成28年7月 平成29年3月 平成29年7月 令和元年10月 | 日本経済学会2015年度秋季大会(上智大学) 日本経済学会2017年度秋季大会(青山学院大学) 成蹊大学経済学部経済セミナー 経済理論・政策ワークショップ(法政大学) 成蹊大学経済学部経済セミナー 経済理論・政策ワークショップ(法政大学) 経済理論・政策ワークショップ(東京工業大学) | 上限価格規制によって超過需要が発生する際に、その超過需要が闇市場における需要を形成する状況で余剰分析を行う方法を示した。ポスターセッション(事前審査有)での発表。 研究開発費用が企業の私的情報であるときの社会的に最適な特許期間を理論的に示した。ポスターセッション(事前審査有)での発表。 特許制度のもとで商品化されない潜在的技術について、非営利組織がその発明と商品化に対してどのような投資を行うべきか、理論的に分析した。スライドを使った口頭発表。 上限価格規制によって超過需要が生じるときの、2次市場を含めた消費者余剰は1次市場での供給割り当ての効率性に依存し、全体の消費者余剰が規制前よりも悪化する場合があることを示した。スライドを使った口頭発表(招待講演)。 政府がイノベーターの研究開発費用を完全には知らないときに、特許期間から社会的厚生期待値を計算し、最適特許期間を求めるための一般モデルを提供した。スライドを使った口頭発表。 政府がイノベーターの研究開発費用に関して完全には知らないとき、社会的に最適な特許期間と特許の範囲について理論的に分析した。スライドを使った口頭発表(招待講演)。 特許当局がイノベーターの研究開発費用を完全には知らないとき、最適特許期間はよりイノベーションの大きさに関して単調とはならず、基本的には増加することを理論的に示した。スライドを使った口頭発表(招待講演)。 |